資料２

第２回就労支援部会によるグループワークによる意見集約

A　地域連携グループ （就労選択のあり方に関すること）【就労系サービスの利用（入口）】	B　支援の質向上グループ （就労支援の質の向上に関すること）【支援の質（利用中）】	C　一般就労移行グループ （福祉施設から一般就労への移行に関すること）【就労系サービスの終了（出口）】
就労選択支援における具体的な支援方法や支援結果の整理、利用者への選択肢の提示方法については、事業所ごとの差が大きいという課題があります。 サービス利用の入口となる学校や相談支援専門員が利用者を支援につなぐ際、その先の就労選択支援事業所においても支援の進め方にばらつきが見られる状況です。そのため、利用者の支援内容や進路選択に事業所間の差が生じることが懸念されます。 また、「どの事業所が適しているのか」といった判断にも影響を与える可能性があり、課題として認識されています。 各事業所がそれぞれの特色を持つことは重要ですが、一方で、利用者に対して共通して説明・提供すべき内容については一定の基準を設け、事業所間で共有していくことが必要ではないかという意見がありました。事業所同士の横のつながりを強化し、共通認識を図っていくことが重要な課題として挙げられました。	就労支援については、本人にとって働きやすい環境や、自分の思いを安心して伝えられる環境づくりが重要ではないかという意見がありました。 その中で、利用者本人が就労に対する希望や不安を支援者に十分伝えられていないのではないかという課題も挙げられました。本人の思いを引き出すためには、日頃から関わりの深い支援者との関係性が重要であり、一方で就労支援に関わる職員を含め、さまざまな立場の職員との信頼関係を築いていくことが、次のステップへ進むために必要ではないかとの意見がありました。 また、A型事業所やB型事業所について、「どのような場所なのか分からない」「実際にどのような活動をしているのかイメージしにくい」といった声も聞かれました。十分な理解がないまま利用につながった結果、利用後に戸惑いや傷つきを感じる方もいるのではないかとの指摘がありました。 就労に関する情報提供については、既存の就労ガイドブックはあるものの、事業所の実際の活動内容や利用イメージまで十分に伝わっていない面があるとの意見がありました。今後、利用者がより理解しやすい情報提供のあり方や関係機関との連携について、引き続き検討していく必要があることを改めて共有しました。	グループでの協議では、最終的に「本人の障害特性や強み・課題についての自己理解を深めることが、就労支援において非常に重要である」という意見で一致しました。ただし、自己理解は本人だけが取り組むものではなく、企業や支援機関を含めた関係者がチームとして関わりながら進めていく必要があるとの意見がありました。 このような話題になった背景として、福祉の立場では、本人の「働きたい」「収入を得たい」「このような仕事に挑戦したい」といった希望やモチベーションを大切にしながら支援を進めたいという思いがあります。一方で、企業側が求めることと本人の希望との間にギャップが生じる場合もあり、本人の希望を優先して就職に至ったとしても、仕事内容とのミスマッチなどによって定着が難しくなるケースがあることが課題として挙げられました。 また、一般就労を継続していく上では、作業能力だけでなく、コミュニケーションや体調管理、職場での対人関係など、作業能力以外の部分が課題となることも多いとの意見がありました。 各分野にさまざまな課題があるものの、協議を通じて、本人が自分自身の特性や得意・不得意を理解し、企業側も本人への理解を深めることが重要であるとの認識が共有されました。本人、企業、支援機関がチームとして自己理解と相互理解を深めていくことで、就職後の職場定着にもつながりやすくなるのではないかとの意見が出されました。

【意見のポイント】

A　地域連携グループ【就労系サービスの利用（入口)】

①　事業所ごとの支援方法（アセスメントなど）や説明内容にばらつきがある。②　事業所において利用者の進路選択や支援内容に差が生じている。③　共通して提供すべき支援内容の統一が必要。

④　サービスの共通認識を図るため、事業所間の情報共有と横の連携強化が求められる。

B　支援の質向上グループ【支援の質（利用中)】

①　本人が安心して希望や不安を伝えられる環境づくりが重要。②　利用者の思いを十分に引き出せていない可能性がある。③　日常的に関わる支援者や就労支援職員との信頼関係の構築が必要。

④　A 型・B 型事業所の活動内容や利用イメージが利用者に十分伝わっていない。⑤　就労に関する情報不足により利用後に戸惑いや不安を感じる可能性がある。

C　一般就労移行グループ【就労系サービスの終了（出口)】

①　就労支援において本人の自己理解の促進が重要である。②　自己理解は本人だけでなく、企業や支援機関を含めたチームで支える必要がある。③　本人の希望を優先し就職しても仕事内容とのミスマッチが生じ、就労定着が難しい。

④　就労継続には作業能力だけでなく、コミュニケーションや体調管理なども重要な要素となる。⑤　本人の自己理解と企業の理解を深めることが職場定着につながる。